

2027年度 情報科学研究科・情報科学部 産学連携教育科目 授業・課題提案受付フォーム



本フォームでは、2027年度に広島市立大学情報科学研究科・情報科学部で実施する産学連携教育科目の授業や課題提案の応募を受け付けております。

本フォームにご入力いただいた内容は、授業運営のために利用します。

個人情報については、本学の[\[公立大学法人広島市立大学個人情報の保護に関する規程\]](#)に基づき適切に管理し、第三者への提供はございません。

【本件に関する問い合わせ先】

広島市立大学 地域共創センター

sangaku-edu@m.hiroshima-cu.ac.jp

* 必須

以下の各項目にご記入ください。

1. 団体・企業名 *

記入例) (株) ○○会社、○○市○○局など、学内の場合は広島市立大学を記載してください。

2. 所属・役職 *

申し込み担当者の所属・役職をご記入ください。複数人の場合は代表者の所属・役職を記入してください。

3. 氏名 *

申し込み担当者の氏名をご記入ください。複数人の場合は代表者の氏名を記入してください。

4. E-mailアドレス *

授業内容（シラバス）確定のための連絡や正式依頼などの連絡に使用しますので、お間違いのございませんよう入力をお願いします。

5. 電話番号 *

申し込み担当者の電話番号をご記入ください。学内の場合は、内線番号を記入してください。

6. 応募する科目をご選択ください。※複数の科目を申し込む場合は、お手数ですが、科目ごとに申請をお願いいたします。 *

実践的ICT活用事例（タイプA）：

地域課題、企業の課題やIT人材育成の必要性、またこれらの解決に向けた取り組みを講述する科目

課題解決型演習・プロジェクト演習（タイプB）：

地域教育や企業から提示された課題に対して問題発見型、課題解決型学習を通して、課題の背景調査や課題解決のプロセスを体験する科目

システム開発実践・高度システム開発（タイプC）：

地域課題や企業の課題解決の取り組みを企業等現場で体験するとともに、取り組みに関連するシステム開発などに参加する科目

- ☐ 実践的ICT活用事例（タイプA）学部2年
- ☐ 課題解決型演習（タイプB）学部2年
- ☐ プロジェクト演習（タイプB）大学院1・2年
- ☐ システム開発実践（学部3年）・高度システム開発実践（大学1・2年）（タイプC）

実践的ICT活用事例（タイプA）に対して提供いただける講義内容をご記入ください。

実践的ICT活用事例（タイプA）は第2～15回に企業様等から1回以上出講していただき、テーマに関して講述する座学の講義です。各回小課題を提示し、その内容と受講態度を評価していただきます。第1回は大学でガイダンスを行います。

7. テーマ名 *

講義のタイトルとなるテーマ名をご記入ください。
記入例）〇〇〇に関する研究開発、△△△社の□□□への取り組みなど

8. 内容 *

講義概要を簡潔にご記入ください。
概要は講義内容とIT技術やIT人材の必要性の関連が分かるように記載をお願いします。

9. 回数 *

講義に必要な回数をご記入ください。
記入例）1回、2回など

10. 評価方法 *

講義に関して受講者の評価方法をご記入ください。
記入例）〇〇に関する小課題、〇〇に関するレポート課題の評価など

課題解決型演習（タイプB）に対して提供いただける課題の内容をご記入ください。

課題解決型演習（タイプB）は企業様等から提示された課題について、課題の背景の研修や解決に向けたプロセス(プロジェクトマネジメント含む)をグループワーク、フィールドワーク、実習を通して学生に指導していただく演習講義です。学生がテーマを選んで履修し、提示された取り組み方法に従って課題解決に取り組みます。取り組み状況、目標達成度、IT人材としてのキャリアについて考えることができたかによって評価していただきます。第1回のガイダンス、第15回の成果発表会（希望される企業・団体様も参加）は大学で行います。インターシップ型の実施も可能で、その場合、産学協議会*の類型タイプ2またはタイプ3に相当します。

※日本経済団体連合設置の「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」は2021年度に報告書「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」をまとめ、「学生のキャリア形成支援における産学協働の取り組み」を4タイプの類型化（第III章）を示しています。
タイプ1:オープン・カンパニー(オープンキャンパスの企業・業界・仕事版)
タイプ2:キャリア教育(プレ・インターンシップ)
タイプ3:汎用型・専門型インターンシップ
タイプ4:高度専門型インターンシップ

採用と大学教育の未来に関する産学協議会 2021年度報告書
「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」
<https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039.html>

11. 課題名 *

提供いただける課題の課題名をご記入ください。
記入例) ○○に関する調査、□□に関する演習、△△△におけるフィールドワークなど

12. 内容 *

提供いただける課題の概要をご記入ください。
提供していただく課題とIT技術やIT人材の必要性の関連が分かるように記載をお願いします。

13. 取り組み方法 *

課題に取り組む方法をご記入ください（実習場所を含む）。
記入例A) 会社において演習を実施する。
記入例B) 座学で検討を行い、○○○においてフィールドワークを展開する。
記入例C) 本学において座学と演習を行う。
など

14. 評価方法 *

課題に関して受講者の評価方法をご記入ください。

記入例) 取り組みの姿勢、計画書、報告書、課題に対する発表・レポート等で評価するなど

15. 受入可能人数 *

提案いただく課題について、現時点での受け入れ可能な学生数（上限）をご記入ください。

システム開発実践・高度システム開発（タイプC）に対して提供いただける課題の内容をご記入ください。

システム開発実践・高度システム開発（タイプC）は学生が企業等現場で就業体験し、提示された課題を解決する実践的なシステム開発に取り組む科目です。取り組み状況、目標達成度、IT人材に求められる技術の理解度によって評価していただきます。第1回のガイダンス、第15回の成果発表会（希望される企業・団体様も参加）は大学で行います。本科目は産学協議会*のタイプ3を想定しています。

※日本経済団体連合設置の「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」は2021年度に報告書「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」をまとめ、「学生のキャリア形成支援における産学協働の取組み」を4タイプの類型化（第III章）を示しています。

タイプ1:オープン・カンパニー(オープンキャンパスの企業・業界・仕事版)

タイプ2:キャリア教育(プレ・インターンシップ)

タイプ3:汎用型・専門型インターンシップ

タイプ4:高度専門型インターンシップ

採用と大学教育の未来に関する産学協議会 2021年度報告書

「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/039.html>

21. 課題の提供対象

システム開発実践・高度システム開発（タイプC）では、提供いただく課題内容のレベルに応じて、科目を選択していただきます。

- ☐ 学部レベルのみ提供可能（システム開発実践）
- ☐ 大学院レベルのみの提供可能（高度システム開発）
- ☐ 学部レベルと大学院レベルの両方を提供可能（どちらも）

22. 課題名 *

対象とする課題をご記入ください。

記入例）○○○に関するシステム開発、○○○に関するデータ分析、○○○のシミュレーションなど

23. 内容 *

提供いただける課題の概要をご記入ください。

提供していただく課題とIT技術やIT人材の必要性の関連が分かるように記載をお願いします。

24. 実施方法 *

課題の取り組み方法をご記入ください。
記入例) ○○○社開発システムを使用、クラウドシステム上に構築するなど

25. 実習場所 *

課題を実施する実習場所についてご記入ください。
記入例) ○○○社開発室など

26. 必要とされる知識・能力 *

ハードウェア、ソフトウェア、システム開発やプログラミング能力など必要な知識・能力をご記入ください。
記入例) 論理回路の基礎知識が必要、Javaプログラミング、Pythonプログラミング経験が必要など

27. 評価方法 *

課題に関して受講者の評価方法をご記入ください。
記入例) 課題に対する取り組み姿勢、計画書、報告書、成果物としてのシステムやコード、成果発表会におけるプレゼンテーションで評価するなど

28. 受入可能人数 *

提案いただく課題について、現時点での受け入れ可能な学生数（上限）をご記入ください。
システム開発実践・高度システム開発の両方に申し込まれる方は、それぞれ受入可能人数をご記入ください。（（例）システム開発実践○○人、高度システム開発○○人）

セクション

29. 申し込み内容に関するご要望やご不明な点がございましたら、ご記入ください。

30. 授業実施にあたっての注意事項をご確認の上、遵守いただける場合はチェックをお願いします。*

- ・暴力団、暴力団関係企業、総会屋若しくはこれらに準ずる者又はその構成員でないこと及び将来も反社会的勢力に該当しないこと。
- ・授業で知り得た学生の個人情報を、目的以外には使用せず、漏洩等が生じないよう適切に管理すること。
- ・学生の自由な学びの妨げとならないよう、学生の成果物の取扱いについては十分に配慮し、必要に応じて大学との協議に応じること。
- ・授業内で知り得た大学に関する秘密情報については、秘密保持に十分配慮し、適切に取り扱うこと。

☐ 上記の注意事項を確認しました。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。